

## 特別決議

### ふたたび白衣を戦場の血で汚（けが）さない 戦争法案の成立阻止のために総力を挙げよう

安倍自公政権がすすめる戦争法案は、いつでも、どこでも、どんな戦争にも、あらゆる形で、自衛隊がアメリカの戦争に加担できるようにする憲法違反の悪法である。

日本医労連は、国民のいのちと健康を守る医療・介護・福祉労働者として、直ちに同法案を撤回することを求める。

日本は、侵略戦争の誤りを反省し、日本国憲法を創り上げた。特に憲法9条は、戦争を放棄し軍隊を持たないことを世界に宣言して、平和国家として国際的な信用を得てきた。安倍首相の目的は、現在の憲法の理念を否定し、「海外で戦争する国」を実現することにある。そして、戦後70年続いた平和な営みを180度転換させようとする歴史的暴挙であり、断じて許すことはできない。

ひとたび戦争が起きれば、医療関係者が戦場にかり出されることはさげられない。先の大戦に動員された従軍看護婦は、判明しているだけでも3万人を超え、多大な犠牲者を出した。

日本医労連はその痛苦の体験から「ふたたび白衣を戦場の血で汚（けが）さない」ことを合言葉に、平和と医療をまもる課題を結成以来58年間、一貫して産別の最重要課題として位置づけて運動にとりくんできた。なぜなら、いのちをまもる医療・介護・福祉労働者の使命と、人のいのちを奪い合い、殺しあう戦争とは相いいれないからであり、憲法9条こそが、日本医労連運動の立脚点だからである。

安倍首相は、来年の参議院選挙後、憲法「改正」を行おうとしている。そのために、戦後最長の国会会期延長で何としても戦争法案を成立させようとしている。しかも、国会審議の前にアメリカに「戦争法案」の成立を約束した。これは、国民主権を踏みにじる、絶対に許せない行為である。

いま、戦争法案に反対する世論と運動は全国で、あらゆる階層で加速度的に発展し、とりわけ青年、女性、学者、有識者の間で反対の声と運動が広がり、安倍政権と自民・公明与党を追い込んでいる。たたかいはこれからである。世論の大きな高まりで参議院での廃案を必ず実現しよう。

日本医労連は、戦後70年をむかえた今、いかなる理由があろうとも戦争・武力行使は許さない、殺し殺される時代への逆行は許さないことを誓うとともに、憲法9条で平和の国際貢献を行うことを求め、患者・国民とともに、戦争法案阻止のために総力を挙げて行動する決意である。

以上決議する。

2015年7月24日

日本医療労働組合連合会・第65回定期大会